

資料提供

令和6年4月15日  
茨城県県民生活環境部環境政策課  
担当：雨ヶ谷、関  
(直通)029-301-2933

## いばらきフードロス削減プロジェクト 「干しいも資源循環モデル形成支援事業」による 干しいも未利用部分の飼肥料化の取り組みをご紹介します！

茨城県が、フードロスの削減と物価高騰への対応を目的に実施した「干しいも資源循環モデル形成支援事業」において支援を行った2事業者の取り組みをご紹介します。

茨城県特産の「干しいも」の製造工程で発生する未利用部分をリサイクル利用し、飼料又は肥料として有効活用する取り組みであり、今回の事業を通じて、2026年度(令和8年度)までに、干しいも未利用部分(※)の利用量が年間約2,400トン増える見込みです。

※干しいもの製造工程で発生する甘藷(サツマイモ)の皮と中身で未利用のもの

※干しいも製造で利用する甘藷は約3万トン、うち干しいも未利用部分は約1万トン(県独自推計)

### 【事業者と取り組み】 詳細は別紙参照

#### ○有限会社太陽産業社(飼料)

- ・本社所在地 古河市仁連2037-44
- ・代表者 代表取締役 <sup>ますだて</sup> 升館 豊
- ・取り組みの概要 干しいも生産者から干しいも未利用部分を購入回収し、家畜用飼料の原料を製造。飼料は、主に県内の畜産農家が利用。

#### ○勝田環境株式会社(堆肥)

- ・本社所在地 ひたちなか市津田2554-2
- ・代表者 代表取締役 望月 福男
- ・取り組みの概要 干しいも生産者から受託して、干しいも未利用部分を原料とした農業用堆肥を製造。堆肥は、主に原料を提供した干しいも生産者が利用。

### 【令和5年度干しいも資源循環モデル形成支援事業】

- ・目的：フードロス削減と物価高騰の対策を目的に、本県特産の干しいもの製造工程で発生する未利用部分を利用し、飼料等のリサイクル資源として有効活用する民間事業者を支援することにより、本県独自の資源循環モデルの形成を図る。
- ・事業概要：飼料化等に必要な施設設備や機械等導入に係る初期費用を補助  
(補助率2/3以内)

## 「干しいも資源循環モデル形成支援事業」による取り組み

### 有限会社太陽産業社（干しいも未利用部分の飼料化）

【事業計画：目標2026年度（令和8年度）】

- ・干しいも未利用部分のリサイクル量 **3,270トン/年（+1,390トン）** ※カッコ内は2022年度比  
(主な回収先：ひたちなか市、東海村)
- ・干しいも未利用部分入り飼料の製造量 **1,628トン/年（+778トン）**

#### 【特長】

- ・干しいもの製造工程で発生する未利用部分をリサイクル利用し、家畜用飼料の原料となる粉末製品を製造。  
※干しいも未利用部分のリサイクル量としては県内トップクラス
- ・製品は配合飼料工場へ出荷され、最終製品となった飼料は主に県内の畜産農家で使われる資源循環モデルを構築。
- ・生産者の干しいも未利用部分の処分に係る負担を軽減するとともに、輸入飼料の価格が高騰する中、県内における国産飼料への転換にも寄与。

#### 【イメージ】



問合せ先 有限会社太陽産業社 古河市北山田146-3 電話0280-77-2091

## 「干しいも資源循環モデル形成支援事業」による取り組み

### 勝田環境株式会社（干しいも未利用部分の堆肥化）

【事業計画：目標2026年度（令和8年度）】

- ・干しいも未利用部分のリサイクル量 **1,022トン/年（+1,022トン）** ※カッコ内は2022年度比  
(主な回収先：ひたちなか市)
- ・干しいも未利用部分入り堆肥の製造量 **381トン/年（+381トン）**

#### 【特長】

- ・干しいもの製造工程で発生する未利用部分を、鶏糞、木くず等とともに混合し、本事業で導入した設備において効率的に発酵等の加工を行うことにより、干しいも未利用部分を活用した農業用堆肥の量産化を実現。
- ・製造した堆肥は、原料を提供した干しいも生産者に還元する資源循環モデルを構築。
- ・生産者の干しいも未利用部分の処分に係る負担を軽減するとともに、化学肥料の価格が高騰する中、県内における堆肥の利用促進にも寄与。

#### 【イメージ】



問合せ先 勝田環境株式会社RC事業部 ひたちなか市高野1967-2 電話029-285-8851

## <参考>

### 【いばらきフードロス削減プロジェクト】（2021年7月～）

茨城県は全国有数の農畜産物や加工食品を産出する食料供給県であることから、事業系フードロスの削減に取り組んでいます。

食品関連事業者や生産農家を対象に、賞味期限間近の食品や規格外農作物等の活用を促進するとともに、フードバンクへの食品提供やリサイクル飼料化の研究を行っています。

#### ○4つのプロジェクトを一体的に推進

- ・プロジェクト1 食品製造、卸、小売ロス対策
- ・プロジェクト2 外食ロス対策
- ・プロジェクト3 生産農家ロス対策
- ・プロジェクト4 食品廃棄物の飼料化

#### ○いばらきフードロス削減プロジェクトマッチング支援コーディネート窓口

（2022年6月～）

フードロスを抱える事業者と活用したい事業者を対象とする、無料のマッチング支援コーディネート窓口を設置し、相談を受けてマッチングしています。

##### ◇主なマッチングの実績

- ・賞味期限間近な食品や規格外のリンゴ等を子ども食堂等に提供
- ・規格外のレンコンをホテルと取引

水戸市三の丸1-5-18（株式会社常陽産業研究所内）

月曜～金曜 9時～17時（祝日・年末年始は除く。）

TEL：029-233-6734 E-mail：no-foodloss@joyobank.co.jp

#### ○リサイクル飼料化研究会（2022年12月～）

食品残渣やこれまで活用が進んでいない飼料資源（未利用資源）のリサイクル飼料化に取り組んでいます。

##### ◇主な飼料化の実績

- ・ニンジン端材を乳牛用飼料化